#### ※上映1プログラムでとにチケット1枚が必要となります。※トークは同プログラムの映画をご覧の方のみご参加いただけます。 スケジュール ※「ライブコメンタリー上映」とは、ゲストによるトーク解説付き上映のことです。 12:15『女神さまからの手紙』『保育園の日曜日』 10:00『阿賀に生きる』 16:05『エドワード・サイード OUT OF PLACE』 トーク 「佐藤真と新潟」神谷丹路(佐藤真のパートナー) トーク「異国の佐藤真」石田優子(映画監督) 聞き手:清田麻衣子(里山社主宰) 聞き手:井上経久(シネ・ウインド支配人) 10:00『阿賀に生きる』 12:15『阿賀の記憶』 18:20 『SELF AND OTHERS』 トーク「佐藤真と『SELF AND OTHERS』」 トーク「佐藤真が遺したもの | 小森はるか(映像作家) 聞き手: 旗野秀人(『阿賀に生きる』製作仕掛人) 飯沢耕太郎(写真評論家) 聞き手:清田麻衣子 10:00『阿賀に生きる』 12:15『狐火伝説の町・津川』 18:20『テレビに挑戦した男・牛山純一』 20:40『水俣病O&A』 『新潟県の歴史』 『新潟県の歴史』 10:00『阿賀に生きる』 12:15『阿賀に生きる』 18:20 『阿賀の記憶』 『星の文人 野尻抱影』 20:40 未公開ラッシュフィルム **SELF AND OTHERS** トーク「佐藤真が音楽に求めたもの」 ライブコメンタリート映 経麻朗(作曲家) 聞き手:井上経久 コメンテーター:井上経久ほか (※ラッシュフィルム=編集前のフィルム) 10:00『阿賀に生きる』 20:40『阿賀に生きる』 12:15『テレビに挑戦した男・ 18:20 『狐火伝説の町・津川』 未公開ラッシュフィルム 牛山純一』 『新潟県の歴史』 ライブコメンタリー上映 コメンテーター:井上経久ほか 10:00『阿賀に生きる』 12:15 SELF AND OTHERS 18:20『エドワード・サイード 21:00『中東レポート OUT OF PLACE アラブの人々から見た 『星の文人 野尻抱影』 自衛隊イラク派兵』 12:15『市場最大の作戦』 18:20 『花子』 『表現という快楽』 10:00『阿賀に生きる』 『おてんとうさまが **SELF AND OTHERS** トーク 「アウトサイダー・アート」 ほしい』 小川弘幸(文化現場代表)+近守(アートキャンプ新潟代表) 17:15『阿賀に生きる』 ライブコメンタリー上映 コメンテーター:小林茂(映画監督・『阿賀に生きる』カメラマン)+旗野秀人(『阿賀に生きる』製作仕掛人) 17:15『阿賀に生きる』 未公開ラッシュフィルム ライブコメンタリー上映 19:10『阿賀に生きる』 コメンテーター:山崎修(木工作家・『阿賀に生きる]撮影助手)+村井勇(フリーカメラマン・『阿賀に生きる』スチール撮影)+井上経久 sun 17:15 SELF AND OTHERS 2 19:10『阿賀に生きる』 17:15『まひるのほし』 19:10『阿賀に生きる』 17:15 トーク「ブリュット? アウトサイダー?」 19:10『阿賀に生きる』 椹木野衣(美術評論家) 聞き手:井上経久 17:25『花子』 17:15 SELF AND OTHERS 19:10『阿賀に生きる』

#### トークゲスト プロフィール ※五十音順

17:15『まひるのほし』

飯沢耕太郎(いいざわこうたろう):写真評論家。著書に『写真美術館へようこそ』 (サントリー学芸賞)、『デジグラフィ』、『現代日本写真アーカイブ』等がある。

石田優子(いしだゅうこ):映画監督。『エドワード・サイード OUT OF PLACE』の助 監督。監督作品『はだしのゲンが見たヒロシマ』。著書『広島の木に会いにいく』。

小川弘幸(おがわ ひろゆき):文化現場代表。新潟の独自性を活かした文化イベントの企画制作・執筆等を行う。水と土の芸術祭2015総合ディレクター。

神谷丹路(かみゃにじ):翻訳家。日本大学、和光大学非常勤講師。佐藤真のパートナー。著書に『帰国歴史散歩』、訳書に『よじはん』 よじはん』等がある。

経麻朗(きょうまろう):ギタリスト&作曲家。『阿賀に生きる』『阿賀の記憶』 『SELF AND OTHERS』の音楽担当。音楽教室「ドリーム音楽院」主宰。

清田麻衣子(きょたまいこ):里山社主宰。編集者・ライター。2016年『日常と不在を見つめて ドキュメンタリー映画作家 佐藤真の哲学』を刊行。

小林茂(にばやししげる):映画監督、『阿賀に生きる』カメラマン。同作により日本映画撮影監督協会第1回JSC賞受賞。監督作品に『風の波紋』等がある。

小森はるか(こもりはるか):映像作家。監督作品に『息の跡』『波のした、土のうえ』等がある。画家・作家の瀬尾夏美と共に制作・展覧会も展開している。

19:10『阿賀に生きる』

椹木野衣(さわらぎのい):美術評論家。多摩美術大学教授。著書に『日本・現代・ 美術』、『「爆心地」の芸術』等がある。『後美術論』で第25回吉田秀和賞受賞。

近 守(5かまもる):NPO法人 アートキャンプ新潟代表。劇団わくわく座長。ぷれジョブ連絡協議会副会長。本業は整体&アロマの店リフレッシュ院長。

旗野秀人(はたのひでと):『阿賀に生きる』製作仕掛人。新潟水俣病安田患者の会事務局、冥土のみやげ企画代表。水俣病問題を文化運動として展開している。

村井勇(もらいいさむ):フリーカメラマン。『阿賀に生きる』スチールカメラ担当。水と土の芸術祭2012オフィシャルカメラマン。アトリエラボン主宰。

山崎修(やまざきおさむ):木工作家。『阿賀に生きる』撮影助手。工房「るるの小屋」で、処分される木を使って自然の風合いを生かした器を制作。

井上経久(いのうえつねひさ):新潟・市民映画館シネ・ウインド支配人。

# 映画 左 勝 真 と

買に生きる\_ 25th Memorial



 $\overset{2017}{9|23_{\overline{\text{sat.}}}}10|6_{\text{fri.}}$ 

# 特集上映「佐藤真が遺したもの」

新潟・市民映画館シネ・ウインド(新潟市中央区八千代2-1-1)

未公開映像を含む佐藤真監督全6作品とテレビ番組、プライベート映像等を一挙上映

- ●上映作品『阿賀に生きる』『阿賀の記憶』『SELF AND OTHERS』 『まひるのほし』『花子』『エドワード・サイード OUT OF PLACE』 ほか
- ●スペシャルゲストによるトーク&ライブコメンタリー上映

前売券◆1,000円 当日料金◆1,200円 シネ・ウインド会員◆1,000円 ※万代シテイ第2駐車場の3時間無料券を発行します。入場受付時に駐車券をご提示ください。 ※特別企画のため、シネ・ウインド会員鑑賞券・各種無料鑑賞券はご利用いただけません。

#### 主催:新潟と会

問合せ:TEL.025-243-5530(新潟・市民映画館 シネ・ウインド) https://satomakotoandniigata.tumblr.com/

上映協力(敬称略): 太秦/シグロ/ユーロスペース/スコブル工房/ NHK/カサマフィルム/マザーバード/藤本美津子/青森県立美術館/ 阿賀町/新潟県立歴史博物館/はたよしこ/石田優子/里山社/秦岳志





# $9|15_{\overline{\text{fri.}}}10|15_{\text{sun.}}$

関連企画展「映画監督・佐藤真の新潟―反転するドキュメンタリー」 主催・問合せ:砂丘館(新潟市中央区西大畑町5218-1 TEL.025-222-2676) 協力:新潟と会 ※観覧無料



〈この事業は新潟市からの補助金を受けて実施しています〉



# 今なお新潟で語り継がれる映画作家・佐藤真。 彼が遺した作品と今ある人々の言葉でつづる回顧の旅。

の老夫婦の生活・日常を見つめたドキュメンタリー映画『阿 賀に生きる』が公開されて、今年で25年になります。

今なお不思議な人気を保ち続けるこの映画は、当時20~30 代だった7人の青年が、現場で3年の共同生活を送り、新潟県 内外の多くの人々の支援を得て撮影が行われました。

ラッシュフィルムが山形国際ドキュメンタリー映画祭で上 映され、監督とカメラマンが公開の場で意見の違いをぶつけ あい、編集においても、監督とスタッフたちが意見をはげしく 戦わすなど、制作過程自体が彼らが育った戦後民主主義的な 非ヒエラルキー的あり方で行われた点でも、特異な映画です。

完成時34歳の佐藤真は、これが初監督作品。カメラを担当 した小林茂はそれまでスチール写真の経験しかなく、ほかの スタッフも全員が映画に関わるのは初めてというメンバー が作り上げた映像作品は、公開後反響を広げ、ドキュメンタ

新潟水俣病の患者でもあった、阿賀野川沿いに暮らす3組 リー映画としては異例の劇場公開が実現。さらに、多くの国 内外の映画賞を獲得し、今では日本のドキュメンタリー映画 史上の重要作品と位置づけられるまでになりました。

> 佐藤真はそれから、2007年に49歳で亡くなるまでの間に、 さらに5本のドキュメンタリー映画を監督しました。

> それら一作一作は、処女作の奇跡と謎を振り返り、映画と は、ドキュメンタリーの本質とは何かを、ひとりの映画人が 深く問い続けた証でもあります。

> 生きていればこの秋で60歳になる映画監督・佐藤真。彼が 深く関わった土地である新潟で、『阿賀に生きる』を含む全 作品(劇場公開作品の全部と、その他の映像作品)を上映し

『阿賀に生きる』は佐藤真に何を語り、問い、教えたのか。 潰された映像を見つめ、さまざまなゲストのトークに耳を傾 けながら、考えます。

#### 佐藤 さとう まこと

1957年9月12日、青森県生まれ。東京大学文学部哲学科卒業。大学在学中より水俣病被害者の支援活動に関わ る。1981年、『無辜なる海』(監督: 香取直孝) 助監督として参加。1989年から新潟県阿賀野川流域の民家に住みこ みながら撮影を始め、1992年、『阿賀に生きる』を完成。ニヨン国際ドキュメンタリー映画祭銀賞など、国内外で 高い評価を受ける。以降、映画監督として数々の作品を発表。他に映画やテレビ作品の編集・構成、映画論の執 筆など多方面に活躍。京都造形芸術大学や映画美学校で後進の指導にも尽力。2007年9月4日逝去。享年49。



#### 新潟・市民映画館 シネ・ウインド TEL.025-243-5530

新潟市中央区八千代2-1-1 ※新潟伊勢丹向い・万代シテイ第2駐車場1F

※新潟駅万代口より徒歩10分



#### 「映画監督・佐藤真の新潟―反転するドキュメンタリー 関連企画展

会場:砂丘館ギャラリー(蔵)

特別支援学校

砂丘館

**/**{ND

 $9|15\overline{_{\rm fri.}}10|15_{\rm sun.}|\frac{9:00\text{-}21:00}{\text{休館日:月曜(9/18,10/90は開館),9/19(火),9/26(火),10/10(火)}}$ 

|映画『阿賀に生きる』の関連資料、スチール写真(村井勇撮影)、牛腸茂雄、石塚三郎の写真、 佐藤哲三の絵画、ほか佐藤真の著書、映像関連の資料などを展示

9|18<sub>mon.</sub> ギャラリーツアー(展示解説) 10:30-11:30 〈参加無料·予約不要〉

9|24<sub>sun.</sub> 佐藤真作品『写真で読む東京』 13:00-14:30 DVD上映〈参加無料·予約不要〉

9|24<sub>sun.</sub> ギャラリートーク「佐藤真と写真」※ 15:00-16:30 飯沢耕太郎(写真評論家)+大倉宏(砂丘館館長)

104 wed.  $\forall v \in V$ 19:00-20:30 「佐藤真はアートとどう向き合ったか」※

椹木野衣(美術評論家)+清田麻衣子(里山社主宰)+大倉宏

※ギャラリートーク:参加費500円(電話、FAX、E-mailで要予約)・定員各40名

主催/砂丘館 協力(一部事業共催)/新潟と会

「飯沢耕太郎さんと長野重一さん」

『写真で読む東京』 1996年NHKのFTV特集とし て放映。東京と向き合った4 (の写真家をとりあげた。 インタビュアーは飯沢耕太 郎。『SELF AND OTHERS』に 先行する、佐藤真が「写真」 と向き合った映像作品。



砂丘館

新潟市中央区西大畑町5218-1 tel.&fax.025-222-2676 sakyukan@bz03.plala.or.jp http://www.sakyukan.jp/

#### ドキュメンタリー映画監督作品



『阿賀に生きる』 1992年/1時間55分/阿賀に生きる製作委員会 撮影:小林茂

新潟水俣病の舞台ともなった阿賀野川流域に暮らす 人々を、3年間撮影。社会的なテーマを根底に据えなが らも、そこからはみ出す人間の命の賛歌をまるごと フィルムに感光させた傑作。



『まひるのほし』 1998年/1時間33分/「まひるのほし」製作委員会 撮影監督:田島征三/撮影:大津幸四郎

登場するのは7人のアーティストたち。彼らは知的 障害者と呼ばれる人たちである。創作に取り組む彼 らの活動を通し、芸術表現の根底に迫る。



**SELF AND OTHERS** 2000年/53分/ユーロスペース/撮影:田村正毅

1983年、3冊の作品集を残し35歳で夭逝した写真家、 牛腸茂雄。残された草稿や手紙と写真、肉声をコラー ジュし、写真家の評伝でも作家論でもない、新しい映 像のイメージを提示する。

#### 『阿賀に生きる』製作に携わったメンバーによるコメント付き上映〈ライブコメンタリー上映〉を行います。詳しくは裏面をご覧下さい。



## 2001年/1時間/シグロ/撮影:大津幸四郎

京都に暮らす花子は知的障害者のためのデイセン ターに通う一方、夕食後、畳をキャンバスに食べ物を 並べ、母はその「たべものアート」を写真に撮る。花子 と彼女をとりまく家族の物語。



#### 『阿賀の記憶』 2004年/55分/カサマフィルム/撮影:小林茂

『阿賀に生きる』から10年。かつて映画に登場した人々 や土地に再びカメラを向ける。人々と土地をめぐる記 憶と痕跡に向き合い、過去と現在を繊細かつ大胆に見 つめた詩的作品。



#### 『エドワード・サイード OUT OF PLACE』 2005年/2時間17分/シグロ/撮影:大津幸四郎

2003年、パレスチナ出身の知識人、エドワード・サイー ドが亡くなった。イスラエル・アラブ双方の知識人た ちの証言を道標に、サイードの遺志と記憶を辿る。

#### 展示映像・ビデオ作品

#### 『狐火伝説の町・津川』 1995年/15分/企画:新潟県津川町狐の嫁入り屋敷 撮影:小林茂、坂井敦

津川に伝わる狐火伝説を、その歴史に幻想的な演出も 交え紹介する。狐の嫁入り屋敷 展示映像。

#### 『水俣病 Q&A』 1996年/30分

#### 使用作品=土本典昭全水俣シリーズ、ほか

水俣病の公式発見から40年目の年に過去のものでは ない水俣病の「現在」を考える。水俣・東京展展示映像。

#### 『新潟県の歴史』

2000年/25分/企画:新潟県立歴史博物館/撮影:坂井敦 語り:永島敏行/音楽:経麻朗

石器時代以降の新潟県域とそこに暮らした人々の、時 代ごとの変化を描いた映像郷土資料。

#### 『表現という快楽』

2001年/43分/撮影:大津幸四郎/編集:飯塚聡

「障害者アート」の作家たちの制作風景を撮影した、 【21世紀アートのエネルギーをみる展】展示映像。

#### 『市場最大の作戦』

2001年/25分/16ミリフィルム作品/撮影:宮武嘉昭 子どもたちとワークショップ作品として作った、【キッ ズ・アート・ワールドあおもり2001】展示映像。

#### 『星の文人 野尻抱影』

2002年/48分/撮影:柳田義和/音楽:経麻朗

紀伊國屋書店評伝シリーズ「学問と情熱」第22巻。冥王 星の和訳命名者でもある野尻抱影の素顔に迫る。

#### 『中東レポート

#### アラブの人々から見た自衛隊イラク派兵』 2004年/43分/編集:佐藤真·秦岳志

シリア人ジャーナリスト、ナジーブ・エルカシュとと もに2004年3月にアラブ諸国を訪れ、中東の知識人や 文化人、難民キャンプに生活する人々に自衛隊イラク 派兵についてインタビューした記録。

#### 個人映画

#### 『保育園の日曜日』

1997年/20分/サイレント/監督・撮影:佐藤真 製作:豊川保育園おやじの会

佐藤監督の娘が通う豊川保育園での様子を映した20 分の短編サイレントドキュメンタリー映画

### 『女神さまからの手紙』

1998年/30分/カサマフィルム/監督・撮影:佐藤真 協力:社会福祉法人豊川保育園、保育園父母の会

私家版の8ミリフィルムで撮影された作品。娘の成長 記録とみずからの生活の記録から、映画としてのフィ クションが新たに立ち上がってくる遊び心あふれる ドキュメンタリー。

#### 構成・編集作品

#### 『おてんとうさまがほしい』 1994年/47分/16ミリフィルム作品 撮影·照明:渡辺生/構成·編集:佐藤真

映画照明技師、渡辺生がアルツハイマーを患う妻 と向き合う日々を記録。編集の佐藤真は白とびし たフィルムで溢れる妻への思いを表現する。



#### 関連作品

#### 『テレビに挑戦した男・牛山純一』 2011年/1時間22分/監督: 畠山容平/企画: 佐藤真

テレビドキュメンタリー界の草分け的な人物である プロデューサー・牛山純一の業績をたどる。佐藤真の 企画により制作がスタート。佐藤の他界後に映画美学 校で彼の教えを受けていたゼミ生たちが引き継ぎ完

#### 書籍

#### 『日常と不在を見つめて

ドキュメンタリー映画作家 佐藤真の哲学』 90~00年代、震災前「見えない世界」を

描こうとした作家の格闘の記録。

佐藤真に惹きつけられた32人 の書き下ろし原稿とインタ ビュー、佐藤真の単行本未収録 原稿を含む傑作選を収録。映像 作家であり、90年代後半の類稀 な思想家とも言うべき佐藤真 の哲学を掘り下げ、今を「批判」 的に」見つめ、私たちの確かな 未来への足場を探る。



http://satoyamasha.com/?p=759

里山社刊/四六版/並製本/カバー帯あり 368頁(カラー16頁含)/定価3,500円(税別) 装丁:川名潤(Prigraphics)

シネ・ウインド、砂丘館の他、北書店(中央区医学町通)、 BOOKS f3(中央区沼垂東)、英進堂書店(秋葉区程島) など、新潟市内書店で販売しています。